

# 町政を問う!!

9 議員が質問・提案を

## 漁業の現状

### 後継者のため 漁場を守れ

### 適切な保護に努める



おかもと 哲也 議員

**問** 県外の大形底引き網漁船が、当町の沖を操業している現状がある。後継者のためにも漁場を守るという重要な課題を行政側も県等に積極的要望すべきと考えるが。

**答** 今西海洋森林課長

当町沖ならず、広範囲であるために迅速な対応に限界があると思う。一定の情報、時期、時間と海域の特定が必要であり、漁業者の協力が不可欠と考える。沖合底引き

ブランド価値を損なわない様に双方とよく協議し、後継者対策にどのような支援のありかたがあるか検討していく。

## 保育料

### 課税階層を増やせ

早急に  
検討に入る

漁業の実態を正確に把握することは困難で、操業海域を順守しているかどうかを判断していく状況ではないと考えている。漁業者には一定の正確な情報を整理して頂き、より建設的で、関係機関と連携した当町沖の水産資源の適切な保護に努めたいと思う。

**問** チリメン漁について、加工業者も高齢化により後継者不足が大きな問題となっている。

担い手、後継者の育成が急務と考えるが、これからの取り組みは。

**答** 今西海洋森林課長

漁獲を素早く最大限無駄にしないような加工体制づくりが必要であり、業者のこだわりを大切に、

区分を見直し、保護者の所得状況に応じた保育料負担となるよう保育料表を見直しているところだ。しかし一般財源を伴うので、具体的にどういった形で階層にかけていくかこれから早急に検討していく。

## 手話

### 役場での対応は

主体は  
筆談で

**問** イベントや講演会で手話通訳の方を付けてはいるが、日々役場などに来た時、こういった対応をとっているのか。今までの対応でいいのか。

**答** 坂本教育長  
町民大学の全講座をはじめ、部落差別をなくす運動の強調循環、人権、解放まつりなどに対応している。

日常業務における対応は筆談による対応が一番多く、ジェスチャー手話の対応となっている。

筆談が苦手な方がおられるので、手話にも対応できる窓口体制が必要と考える。しかし日常会話レベルまで取得するためには、養成講座などの受講の必要があり、窓口対応については筆談を主体とした対応を続けていく。また、ITを利用した自治体もあるようだが、費用等の問題もあり、一度検討していきたい。

**答** 坂本教育長

当町の場合、4万9700円から9万7千円の世帯が比較的多い状況。保育料も月額1万円の差があり、所得の差があまりないにも関わらず、保育料の差が大きくなっているといえる。この階層



豊富な漁場からの贈り物 “ノドグロ”